

大阪薬科大学広報委員会

ボ タ ン

ボタン *Paeonia suffruticosa* Andr. (*P. moutan* Sims) (Paeoniaceae) は中国北西部の四川、陝西、甘粛省を原産地とする説と、西方アジアから中国に入ったとする説がある。晉時代(264年頃)から知られた芍薬よりもおそく、神農本草経(452~536年)に中品の薬として収載されている。形状がシャクヤクに似ているが、木本であるので木芍薬とよんでいた。唐の玄宗(712年頃)の時に宮中

ところとなった。

ボタンの薬用種を秋季掘りおこし、根を木づちで軽くたたいて木心を取り去り、皮部を薬用とする。中国では安徽省の銅陵鳳凰山のものを最も佳品とし、各地でも生産され、韓国からも出荷する。本邦では奈良、長野県産が多い。主成分は *Paeonol-glycoside* でこの分解によって組織中に *Paeonol* の佳香ある結晶が析出する。従来不用の木部からも *Paeonol* 等を相当量含有するとの報告もある。牡丹皮の薬理作用は比較的良好に知られ、*Paeonol* は虫垂突起炎菌に対する抗菌作用、鎮静、下熱、鎮痛、抗けいれんなどの中枢抑制作用が知られている。昔から、立てば芍薬座れ



て園芸品種が栽培されはじめ、花のもっとも富貴なるものと詩歌にうたわれ、洛陽の街々はこの花で飾られ、洛陽花の異名をも持つようになった。わが国への渡来は奈良朝の724年頃と云われているが明らかではない。入唐した吉備真備が帰朝(735年)の時、これを朝廷に捧げ、摂津国池田の荘にて栽培がはじまった。以来、各地で多くの品種がでるようになり、長谷寺では元禄13年来の名所で、本学に近い当麻寺、石光寺の牡丹は特に著明である。さらに園芸品種の生産地としては島根県の大根島が知られている。ヨーロッパへの中国からの伝播は新しく、1789年 J. Banks がイギリスのキュー王立植物園にもたらしてから急速に西欧諸国の知る

ば牡丹と女性の美さをあらず言葉があるが、これは健康な女性が美しいということで、腹筋の緊張をゆるめるには芍薬、子宮その他にうっ血状態があって、立ち居振舞がおっくうになった時には牡丹がよいというようにされている。昨夏、昆明植物研究所開場で野生種を拝見したが、時季的に花が見られなかったのが心のこりである。

(太田長世)



新入学生を迎えて

学長 堀田 輝 明

○日本の大学は転換期に来ている

戦後の大学は昭和40年代の経済好況の中で、急速に大衆化が進みましたが、ここ数年大学進学率は鈍化あるいは逡減の様相を見せています。これは簡単にいえば、大学が魅力を喪失したということであり、もはやこれ以上大学は必要でなく、大学間の選別が一そう進み、淘汰される学部・学科が出て来て当然ということです。すでに家政学部とか家政学科は姿を消しはじめ、姿容しつゝあります。ここで考えるべきは、大学は果してこれでいいのかということなのです。

日本の各界での将来の中堅人材や指導者を養成すべき大学があまりにもマス・プロ化とレジャーランド化に流れ過ぎていなかったでしょうか。今こそ大学はすぐれた教育研究環境をつくり上げるとともに責任ある指導体制のもとに、もっと熱心に教育研究が行われねばなりません。いよいよ大学は量よりも質を求める時代へと転換しつゝあります。我々は真剣に学問や研究にとり組む雰囲気醸成して行く必要がありますが、学生諸君・諸嬢にもその意気込みを期待します。

○私学の特色はなにか

国立や公立の大学に比して、私学の特色を建学・創学の精神に求める人がいますが、早稲田・慶応ですらそうしたことはナンセンスだと思います。私学も国公立と同じ学校教育法に基いて作られる大学ですから、そう変わりようがなく、しかも今日では経常費の半ぐらいを国の補助（私学助成）でまかなうに至っていますから、準々国立ぐらいに呼んでいいかも知れません。しかし私ほそれでも経常費の大半を授業料等の学費でやりくりして行かねばならぬのが私学の最大の特色と考えています。そんなこと自明だと言われるでしょうが、これが大問題なのです。国立大学は“入るを計る”必要なしに、“出ざるを計る”ことばかりで努力して行けばいいのですが、私学はまさしく“入るを計って”というところから大変な苦慮をしなければならぬ“つらさ”を持っています。

親方日の丸の国立大学に比して、私学は設備が劣っていると気安く批評する人がいますが、私学の設備の金がどこから出てくるかを考えれば、失礼な比較だとすぐ判

って頂けると思います。せめて私学は国に僅かしかオンブされていないのですから、国家の権力支配とか余計な干渉を極力排して、自由に創意ある学風を作る余地を確保しなければなりません。本学もそこに思いを致して、ユニークな教育システムを考え、活力のある大学へ行って行きたいと思います。

○薬系大学は大きく変貌する

さて、わが大学を含めて薬系の大学・学部の卒業生は殆んどが薬剤師の免許状を取得して、それを活用しつゝ社会の多方面に活躍しているか、有事に備えて大切に保管しているか、いずれかでしょう。とに角、薬系大学は薬学研究者養成以上に薬剤師養成機関として機能して来ています。これは今後も変わらないでしょうが、その薬剤師がこれでいいのかは考える必要があります。薬剤師が薬の専門家ならば、もっと薬について知っている必要があります。薬は医療にかかわるのですから、もっと病気を知る必要があります。病気を知らず、患者を知らず、たゞ出来合いの薬を言われるまゝに袋に詰めたり、売っているだけでは、誰にでもできる仕事だと言われても仕方ありません。薬剤師の職域は広く、そのことは薬系大学の卒業生には大変有難いことなのですが、薬剤師としてはもっと医療に接近すべきでしょうし、社会的にもその要請は強まり、数年後には薬剤師の国家試験の受験資格に学年延長を含む変化が出て来る可能性があると思います。

このように今後は薬剤師の在り方をめぐって、薬系大学が急速な変身を迫られる事態が予測されること、さらには力のある有能な薬剤師が社会的に要求されていることを考え、本学は目下カリキュラムの改訂による教育改革を検討しております。時あたかも本学が高見の里に居を移して今年丁度50年、本館の建物はその時のものであります。また創立以来の苦難と栄光の歴史も80年近くを数えます。時代に応えつゝ、時代を越えて人間の生命の尊さに奉仕する薬学徒として、理想を見失ったり、諦めたりなさることなく地道に勉学に励まれ、輝かしい1頁を加えて頂きたいと思ひます。

新入生を迎えて

教務部長 森 逸 男



新入生の諸君、御入学を心より御祝い申し上げます。長い受験勉強を経て、深い教養と薬学の探究の場として本学に目出度く御入学されたことを歓迎致します。

本学は入学案内などを通して周知のように、歴史も古く、設備も充実した単科大学で、人文、社会、自然科学系一般教養科目、英語、独語の外国語科目などの一般科目と併行して、4月早々より薬用植物学、無機薬化学とその実習、及び有機薬化学Ⅰ、分析化学Ⅰなどの専門科目がカリキュラムに組みこまれております。実習、体育実技の16単位(4回生の特別実習を除く)及び語学(16単位)などは、いずれも約80名のクラスに配属し、教職員と学生諸君との肩の接触が極めて密で、和やかに講義、実習が展開致します。なお実習、実技には出席が義務づ

けられていますが、講義(必修38単位、選択74単位)には出席制を採用せず、諸君の自覚にゆだねております。

人文、社会系の一般教養科目は1~3回生での自由選択制ですが、1回生より開講される専門科目は10単位に限定された選択必修制をとっておりますので、将来の進路を考えながら、最適の希望科目を選択履修する必要があります。10単位以上の選択科目の聴講は自由ですが、卒業時には計128単位を、それぞれ定められた範囲で取得しなければなりません。今までの長い勉強からの解放感から、ともすれば無軌道となり、未取得単位10単位以上で留年の憂目を見るケースが毎年見うけられます。これら選択科目、必修科目の履修法などについては各クラブの先輩、アドバイザーの諸先生と相談の上、毎日毎日の着実な勉強、教養の積重ねが必要であります。常に自から進んで学問を探究し、薬学の深奥を極め、社会の要望に答え得るような薬学士としての専門知識を身につけられんことを望みます。他方余暇を学友会クラブ活動、サークル活動に励み、大学生として巾広い知性と教養の育成に精励しなければなりません。諸君の限りない活躍を期待しております。なお教務関係の疑問点は各アドバイザーの諸先生、あるいは教務部職員などを御活用下さい。

新入生におくる

余裕ある生活設計を!

学生部長 小 澤 貢



新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。

受験戦争という、苦しい、大きな峠を越えてほっと一息つくと共に、大きな希望に胸をふくらませておられることと思います。

今までのような受験の影に付きまとわれた生活から抜け出て、いよいよこれからは新しい希望に満ちた生活に踏み出すこととなります。

しかし、この時期は解放感から目標がとらえられなくなり、ぼんやりとした日々を送ってしまったり、あるいは逆に、あれも、これもと欲ばった目標を持ち過ぎ、ツッパリ過ぎてかえって意味のない日々を過してしまう危険のあるときでもあります。科学時代と言うのが空々しく感じられる程科学が進歩し、それに伴い人間社会の姿貌は無気味なくらいの早さで進んでいる現在、うっかり

するとそれを追うだけの、また追われるだけの生活になってしまいます。

先ず一度、余裕ある、ゆったりとした気持ちで回りを眺めてみて下さい。路傍や軒先の草花でも、夜空の星でも、街並みや遠くの間々でも結構です。意識して眺めてみて下さい。受験勉強に追われて頭がいっぱいだったとき、合格後の嬉しさであれこれと欲ばったことを考え過ぎて余裕のなくなった状態のときには目に入らなかつたものが見られるはずですよ。そうした余裕が出たところでこれから先の目標、大学生としての生活設計を立てても遅くはないでしょう。

本学は薬科大学と言ういわゆる目的大学ですから、学術の面での目標は比較的立てやすいと思えます。しかしその反面、井の中の蛙の目標になりやすい欠点もあります。青春時代の後半に入るこれからは皆さんにとって、精神的にも肉体的にも成熟えの足固めという大切なときです。クラブ活動、サークル活動にも大いに参加して自己の可能性を追求して下さい。本学には文化、体育ともに比較的多数のクラブ、サークルがあります。これらに参加して先輩からいろいろな体験談を聞き、また友人と大いに語り合い、汗を流すことによって、協調性、責任感などを養っていただきたいと思えます。

昭和56年度 卒業生就職状況

就職部長 太田 長世



56年度の6月に実施された賃金改正による製薬企業の新規採用に対する影響と、大学就職協定が乱れをみせるかもしれないと云う情報等によって、当初は本学の就職率が低下することを予想し憂慮した。年末に至っても進学、病

院研修生の決定を含める進路決定率が男子65%、女子51%にとどまり、企業、病院等への就職は前途多難を思わせるものがあったが、諸先生の御尽力と学生諸君の熱意によって1~2月と急速にのび、3月20日の卒業式では就職を希望する男子は95.3%、女子95.4%の内定をうることができ、まずまずの結果がえられた。

本年の求人状況をふり返ってみると、有難いことにずいぶん幅広い多数の求人がよせられた。このうち企業は予想どおり男子の場合、圧倒的に医薬情報担当者（営業部門）を望んでいるのがめだち、薬学出身者を一人でも多くと手を広げている現状に注目し、より一層の熟慮のうえ、よりよい進路を決定するようおすすめする。

なお、2月24日付の私立大学協会申合せ通達による

と、57年度卒業予定者のための就職協定は良識をもって、これを遵守する結論をうちだした。これにこたえて本学もこれに協力して10月1日就職事務開始、11月1日受験開始をもってゆくように指導、斡旋するよう進めてゆく方針である。

昭和56年度卒業生進路（3月20日現在）

進路	男子	女子	計	%
会社（営業）	30	0	30	10.7
会社（開発、生産、研究）	19	55	74	26.3
病院（薬局、臨床検査）	17	59	76	27.0
薬局	7	15	22	7.8
病院研修生	7	12	19	6.8
公務員	7	0	7	2.5
大学職員	0	10	10	3.6
大学研究員	0	7	7	2.5
進学（大学院）	17	1	18	6.4
自営	2	0	2	0.7
未定	4	7	11	3.9
就職不希望	2	3	5	1.8
計（名）	112	169	281	100.0

新入生ガイダンス

教務課

新入生の皆様ご入学心よりお祝い申し上げます。教務課は皆様が学習する上において、今後四年間否、それ以上の永い付き合いとなります。学科目履修届、受験届、薬剤師国家試験関係等諸手続の窓口の他修学上の疑問点等の相談窓口でもあり、学生の皆様とは特に密接な関係の課であります。課員一同誠意を以ってその任に当たる所存です。お気軽にご相談下さい。

尚、留意事項として大学よりの掲示は、その当日から周知されたものとして取扱いますから常に掲示には注意して下さい。

◎掲示場所

正門横・教務課前・本館西三階

学生課

1. 学生証、認印、ロッカーの鍵

「学生証」は本学学生たる身分証明書ですから常時

携帯を必要とします。

「認印」も各種証明願・届に必要ですから必ず常時所持して下さい。

「ロッカー」の鍵は必ず毎日持って来て下さい。常に忘れたと言って、学生課に借りに来られるのは仕事の手をとられ、甚だ迷惑します。その様なことのない様にお願いします。

1. 住所・電話の変更届

住所または電話を変更した場合は直ちに変更届を出して下さい。

1. 掲示に注意

掲示板の掲示は必ず毎日見ること。学内規程第14条に「掲示した告示などは、一般に承知したものとみなす」ことになっていきますから、正門左、玄関入口左、教務課前、学生課前の掲示板は必ず見て下さい。

1. 健康診断

学内規程第13条に「定期健康診断は必ず受けること」となっています。正当な理由なく受診しなかった者は

昭和57年度予算の概要について

事務局長 小 村 俊 夫



3月25日の理事会及び評議員会において、昭和57年度予算が決定しましたので、消費収支予算書の総括表に基づいて概略説明をします。

消費収支予算書とは、学校財政の各年度における収入、支出の内容及び均衡を明らかに

するための目的で、学校法人会計基準（昭和46年文部省令）で規定され、所定の方式により作成されるものがあります。

次に別表（昭和57年度予算書総括表）の科目毎に主要と思われる事項等を説明します。

（消費収入の部）

学生納付金——授業料、設備費、維持費、入学金を含み、昭和54年度授業料等改定分の学年進行により、前年度比1億1850万円の増

補助金——国庫よりの補助金で、私学に対する厳しい

財政事情から増額は困難と思われませんが若干の期待を持って、前年度比1000万円の増

資産運用収入——銀行預金等の利息で、切替時期等を勘案して、前年度比400万円の増

事業収入——学生寮収入で入寮者数及び給食数の減傾向により、前年度比387万円の減

雑収入——退職金財団よりの交付金（新規）等により前年度比808万円の増

帰属収入——学校法人の負債とならない収入であって、前記の科目（手数料略）の合計で、本年度は16億5116万円となり、前年度比1億3776万円の増

基本金組入額合計——学校設立当初に取得した固定資産、基金として継続的に保持、運用する金銭、その他の資産の額、これらは各年度毎に基本金として組入れることになっている。本年度は、大学会館（仮称）の増築、同備品の取得、土地購入、その他教育研究用機器の購入等を予定しており、本年度の基本金組入額合計は、3億7349万円となり、前年度比2億2747万円の増

消費収入の部合計——帰属収入の額から基本金組入額を控除した額が、消費収入の部合計12億7767万円となります。前年度比8971万円の減

（消費支出の部）

人件費——教職員給与、退職給与引当金等を含みますが、本年度は、給与費アップ、定期昇給、退職金財団掛金等の増により、前年度比8537万円の増。

教育研究経費——光熱水料、教育研究用消耗品、通信費、旅費、印刷製本費、修繕費等を含みますが、本年度は大学会館（仮称）改造費、電気幹線改修等を実施するため、前年度比1億474万円の増

管理経費——庁用経費、が主体で前年度において会議室等の改修も終わり、なお経費節約に努め、前年度比5542万円の減

消費支出の部合計——以上科目の合計は、13億8743万円となり、前年度比1億3269万円の増

当年度消費支出超過額——1億976万円となりますが前年度繰越収入超過額——1億2271万円より差引き、翌年度繰越収入超過額——1295万円の結果となります。

新入生ガイダンス

各種証明書の発行を停止することがあります。受けられなかった場合は保健所で受診の上、健康診断証明書を貰い学生課に提出して下さい。費用は自己負担のこと。

1. 落し物、紛失、盗難

落し物、紛失物、拾得物、盗難は直ちに学生課に届け出て下さい。掲示板の落し物、忘れ物コーナーに掲示します。自分の特物、教科書、辞書、筆入れ等には必ず回生、番号、氏名を書いておきましょう。

1. 健康保険証の写

学内でケガをし、近所の病院で手当を受ける時、健康保険証の写があれば保険扱いにしてくれます。翌日本証を持参しなければなりません。費用の節約になります。体育局所属クラブ員は必ず保険証の写を携帯して下さい。体育クラブ員外の人でも実習、体育実技等でケガをすることがありますから、写を所持しましょう。

消費収支予算書総括表

〔消費支出の部〕

昭和57年4月1日から
昭和58年3月31日まで (単位円)

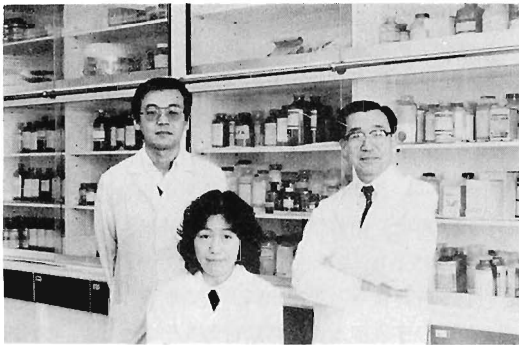
〔消費収入の部〕

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増(△)減
学生納付金	1,088,200,000	960,700,000	118,500,000
手数料	55,200,000	54,150,000	1,050,000
寄付金	0	0	0
補助金	390,000,000	380,000,000	10,000,000
資産運用収入	92,000,000	88,000,000	4,000,000
事業収入	14,680,000	18,550,000	△3,870,000
雑収入	11,080,000	3,000,000	8,080,000
帰属収入合計	1,651,160,000	1,513,400,000	137,760,000
基本金組入額計	△373,490,000	△146,020,000	△227,470,000
消費収入の部計	1,277,670,000	1,367,380,000	△ 89,710,000

科 目	本学年予算額	前年度予算額	増(△)減
人件費	807,800,000	722,430,000	85,370,000
教育研究経費	479,110,000	374,370,000	104,740,000
管理経費	64,520,000	119,940,000	△55,420,000
借入金等利息	26,000,000	28,000,000	△ 2,000,000
予備費	10,000,000	10,000,000	0
消費支出の部計	1,387,430,000	1,254,740,000	132,690,000
当年度消費収入超過額	0	112,640,000	—
当年度消費支出超過額	109,760,000	0	—
前年度繰越消費収入超過額	122,710,000	0	—
前年度繰越消費支出超過額	0	169,940,000	—
翌年度繰越消費収入超過額	12,950,000	0	—
翌年度繰越消費支出超過額		57,300,000	—

●研究室だより●

生薬学教室

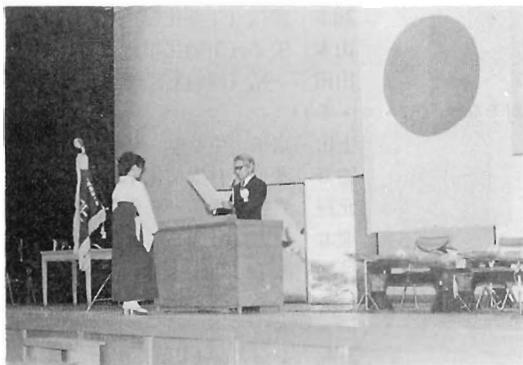


教授 太田長世 (右)

講師 三野芳紀 (左) 副手 上田京子 (中央)

帝国女子薬専創立まもない頃から大阪薬大を退職されるまで、川原吉次郎先生が生薬学、生薬化学、薬用植物学、生物学、薬学ラテン語と巾広い講義を受けもち、生薬学教室を主宰され、やゝ後で薬用植物学は真里谷登代先生が講義されていたが、両先生の御停年の後、私が生薬学の講義と生薬学教室担当となり現在に至っている。私が本学に臨時講師の名称で着任し、生物、薬用植物学

実習のお手伝いをしたのは大学一期生がまだ2回生の時で、大学に昇格したばかりでもあり、戦後ほどない時期で教室にはこれといった設備も見られなかったが、学生諸君は全般的に野生的活力が一杯で、勉学に学生活動に熱心であり、教室所属の学生とともに教室の充実に協力してくれたものである。当時、私達の教室は本館3階西北の現在35教室とよんでいるところの東側一部で、その西側の物理実習用具、生薬標本棚が並ぶ部屋に接したいたって手狭なところであった。その後いくつかの変遷があり、現在のように西館研究棟の3階に移り、研究室には新しい機器もふえ、標本室もまだまだ不十分ではあるが、最近の本邦市場生薬、海外の市場生薬も加わってやや標本数もふえはじめようやく生薬の教室らしくなっている。なによりも有難いのは、私達の教室には当初から元気で明るくて爽やかな学生が入室し、彼等とともに行動できることである。教室の仕事としては、植物中のサポニン、デンプン、イヌリンの問題、昔から人々が大切にしてきた漢薬に関する課題、植物中の微量含有金属についての検討等種々の問題をかかえているが、これらの解決には従来からの生薬研究方法に加えて、高速液体クロマト、X線回析、蛍光X線等の最新の機器を利用して、三野芳紀講師の新しい知識と熱心な研究意欲のもとに、さらには長らく御苦勞を願った田中和美助手にかわる上田京子副手の協力と特研の学生諸君の努力をえて研究を進め、より一層、教室の充実ははかりたいと考えている。



卒 業 式

大 学 ご よ み

12月19日(土)	特別実習・特別講義選定届締切り
12月25日(金)	冬季休業
57年1月7日(木)	
1月8日(金)	冬季休業後授業開始
1月16日(土)	後期授業終了
1月18日(月)	後期試験
2月3日(水)	
2月3日(水)	大学院修士論文発表会
2月11日(木)	入学試験(志願者数2533名)

2月15日(月)	後期追試験
2月19日(金)	
2月19日(金)	入学試験合格者発表
2月20日(土)	
3月4日(木)	後期再試験
3月26日(金)	
3月2日(火)	特別実習発表会 卒業予定者発表
3月4日(木)	
3月9日(火)	最終試験
3月12日(金)	
3月20日(土)	卒業予定者・1~3回生進級発表 第29回卒業式ならびに第6回大学院修了式(学部卒業生281名, 大学院修了生2名)



入 学 式

新任の挨拶

講 師 坂 田 勝 治



このたび私は、長い伝統を誇る本学に、語学教育部門の一員として奉職する栄を与えられ、職責の重大さに肅然と身の引締まる思いを致しております。これまで私は府立高校での英語教育に携わっておりましたが、その中で乏しい経験の結果、自戒として常々感じるようになったことは、『教える』ということは同時にまた『教わる』ことでもあるということです。本学に参りましてからも、本学全体から醸し出されるアカデミックな雰囲気から学び、又真理探究へ向う学生達の真摯な勉強態度からも学びつつ、自己研鑽に励みたいと願っております。

本学の学生は薬学専攻という明確な目的意識を持っているため、学問研究への意欲と情熱も強いことと期待され、その高邁な目標を実現する為の教育の一端を、語学

教育の分野で担えることは、幸せな事と申せましょう。それぞれの専門分野に進出していく学生が、未来に向けて発展していく上での基礎的な学力である語学において、その礎石を築くための一助にでもなればと思っております。私自身の個人的課題としては、『ことば』そのものの理解を深める研究は勿論のこと、言葉とは表裏一体の人間性がどのように表現されているかを研究目標としたいと思っております。

ところで、卒業式や学位授与式を表す幾つかの英語の中に、commencement(=開始)というのがあります。卒業が『終了』を意味するのではなく、新しい『開始』を意味するということです。本学への新入生にとっては高校からの卒業が同時に新しい大学生活の開始であります。新任の私にとりましても、まさに本学に職を奉ずることは新しい commencement であり、転進であると同時に新生でもあると理解致しております。

もとより、私自身浅学非才の身ではありますが、本学の建学の精神に則り、本学の興隆発展に些かなりとも貢献できるよう精励する所存であります。今は着任早々ゆえ、現在の所感の一端を申し述べて、今後皆さまの御指導、御協力をお願いしつつ、新任の挨拶とさせていただきます。

学位(修士)授与 (57.3.20)

清水聡美 「植物中のイヌリン含量とその分子量分布に関する研究」

瀬尾留美 「ラット肝チトクローム P-450の分子多様性に関する研究」

—高速クロマトグラフィーによる分離—

前期行事予定

4月12日(月) 入学式
4月13日(火) 新入生ガイダンス 午後アドバイザー面談
4月14日(水) 午後2～4回生ガイダンス 授業開始
4月24日(土) 午後新入生歓迎会(学友会卯月祭)
4月21日(水) レントゲン検診
4月26日(月) レントゲン検診
5月4日(火) 5月9日の本学創立記念日振替休日
5月6日(木) 健康診断
5月10日(月) 健康診断
5月17日(月) 単位獲得試験
7月11日(日) 夏季休業
9月10日(金) 夏休後授業
9月11日(土) 夏休後授業
9月14日(火) 前期授業終了
9月14日(火) 前期授業終了
9月16日(木) 前期試験
9月29日(水) 前期試験

人 ◆ 事 ◆ 異 ◆ 動

図書館長発令 (57・4・1)

森本 史郎(教授)

寮監発令 (57・4・1)

森下 利明(教授)

助教授発令 (57・4・1)

石田 寿昌(薬品物理化学)

講師発令 (57・4・1)

有本 正生(有機薬化学)
安田 正秀(実験動物センター)
三野 芳紀(生薬学)
西野 隆雄(製剤学)
坂田 勝治(英語 新採用)

助手発令 (57・4・1)

近藤 裕一(放射薬品学)
柴田 恵(薬品物理化学)

福本 雅代(生薬化学)
山本 栄子(生物化学)
山田 晃(放射薬品学 新採用)

副手発令 (57・4・1)

上田 京子(生薬学 新採用)
勝野 孝子(有機薬化学 新採用)
北野 尚子(薬品分析化学 新採用)
栗本 真理(M.A.S.S. 新採用)
樋端 詠子(衛生化学 新採用)
戸奈 優子(衛生化学 新採用)
三原 京子(薬品製造学 新採用)
藤井 香穂(薬品物理化学 新採用)

事務職員発令 (57・4・1)

杉本 京美(庶務課 新採用)

技能職員発令 (57・4・1)

島田 順一(園丁 新採用)

配置換発令 (57・1・1)

山本 智子 学生課
(計理課より)
加宮 春世 教務課
(庶務課より)
阪本 尚子 計理課
(学生課より)

嘱託発令 (57・4・1)

浅野 忠行(事務局次長 庶務課長)
(併任)
加藤 勇(庶務課労務管理室長)
山本 あさ(用務員)
梅田 ハル(用務員)

退任 (57・3・31)

水谷泰久教授 図書館長
(任期満了につき)
吉田巖吉教授 寮監
(任期満了につき)

退職 (56・12・31)

石城千鶴 助手(衛生化学)

退職 (57・3・31)

宮川 清司 講師(英語)
坂口紀美子 助手(薬品分析化学)
田中 和美 助手(生薬学)
那須 啓子 助手(薬品製造学)
坂尾 聡 副手(M.A.S.S.)
浅野 忠行 事務局次長 庶務課長
(併任)

解嘱 (57・3・31)

山本 あさ 用務員
阪田藤太郎 技能職員
黒岡 貞次 用務員

訃報

教務課主任 山本アサノさんは昭和57年2月14日心臓病のため御逝去されました。謹んでお悔み申し上げます。

教員研究業績一覽 (1981)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
秦清之, 西野隆雄, 平井陽市, 和田安弘, 小澤 貢	シシウド (<i>Angelica pubescens</i> MAXIM.) 果実のクマリン成分	薬誌, 101, 67 (1981)
酒井 清, 中谷真理子, 山崎みどり	胃液分泌動態におよぼす経口糖尿病薬の影響	薬誌, 101, 354 (1981)
山口秀夫, 有本正生, 田之口真理子, 沼田敦	ハスノハギリ (<i>Hermandia ovigera</i> L.) の種子成分研究 (第2報) リゲナン成分ならびに関連物質についての2, 3の反応	薬誌, 101, 485 (1981)
杉山和明, 小川孝子, 平野弘	1,4-Benzothiazine に関する研究 (第3報) 2-Acyl-4-methylbenzothiazine 類およびその関連化合物の反応性	薬誌, 101, 904 (1981)
森 逸男, 藤田芳一, 坂口紀美子	o-ヒドロキシヒドロキノンフタレインとウラン (VI) を用いるチアミンの吸光度定量	分析化学, 30, 261 (1981)
森 逸男, 藤田芳一, 坂口紀美子, 坪根朋子	ピロガロールレッド-モリブデン(VI) 錯体を用いる硫酸キニーネの定量	分析化学, 30, 679 (1981)
木村捷二郎, 三島隆一郎, 佐々木将博, 近藤裕一, 他	生薬原料「牛黄」の放射線殺菌	生薬学雑誌, 35, 26 (1981)
小澤 貢, 馬場きみ江, 奥田恵子, 福本登士子, 秦清之	白の花の成分研究 (補遺1) 和白花のクマリン成分	生薬学雑誌, 35, 90 (1981)
水谷泰久, 他	亜硫酸ナトリウムとプロピオン酸ナトリウムの併用投与における毒性	食衛誌, 22, 351 (1981)
水谷泰久, 他	デヒドロ酢酸ナトリウムとジブチルヒドロキシトルエンの併用投与における毒性	食衛誌, 22, 366 (1981)
小川孝子, 平野 弘, 他	ビタミンB ₁ とブロムシアンとの反応におけるO-カルバモイルチオクロームの生成について	ビタミン, 55, 453(1981)
木村捷二郎, 佐々木将博, 近藤裕一, 他	牛黄を含む生薬製剤の放射線殺菌に関する基礎研究 含水デンブレンペレット中のピリルピンおよび胆汁酸の放射線分解	RADIOISOTOPES, 30, 669 (1981)
木村捷二郎, 佐々木将博, 他	Fe ²⁺ の湿式酸化による放射性元素の共沈	保健物理, 16, 145 (1981)
木村捷二郎, 佐々木将博, 近藤裕一, 他	水酸化第二鉄凝集粒子の沈降速度における粒子有効密度の影響	KURRI-TR, 208, 1 (1981)
加藤喜昭, 久保真百合, 森本一洋, 斎藤元一, 森坂勝昭, 稲森善彦, 他	Toxicological Approaches to Streptothricin Antibiotics. IV. Toxicity of Streptothricin Antibiotics to the Blood	Chem. Pharm. Bull., 29, 580 (1981)
森本史郎, 中村憲史, 福原厚子, 安部りょう子, 松村靖夫	Subcellular Localization of Renin in the Mouse Kidney	Chem. Pharm. Bull., 29, 849 (1981)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
栗原拓史, 谷 力, 邦須啓子	Ring Transformations of 6H-Cyclopropa [5a, 6a] pyrazolo [1, 5-a] pyrimidine. II. Reaction of 5a-Acetyl-6a-carbethoxy-5a, 6a-dihydro-6H-cyclopropa [5a, 6a] pyrazolo [1, 5-a] pyrimidine-3-carbonitriles with N-Methylaniline	Chem. Pharm. Bull., 29, 1548 (1981)
西野隆雄, 他	Marine Natural Products. VII. Bioactive Triterpene-Oligo-glycosides from the Sea Cucumber <i>Holothuria leucospilota</i> BRANDT (1). Structure of Holothurin B	Chem. Pharm. Bull., 29, 1942 (1981)
西野隆雄, 他	Marine Natural Products. VIII. Bioactive Triterpene-Oligo-glycosides from the Sea Cucumber <i>Holothuria leucospilota</i> BRANDT (2). Structure of Holothurin A	Chem. Pharm. Bull., 29, 1951 (1981)
馬場きみ江, 小澤 貢, 秦清之, 石田寿昌, 井上正敏	The Structure of Yellow Pigments from the Rhizomes of <i>Cimicifuga dahurica</i> MAXIM.	Chem. Pharm. Bull., 29, 2182 (1981)
栗原拓史, 邦須啓子	Reactions of Pyrazolo [1, 5-a] pyrimidine Derivatives with Nucleophiles. I. Nucleophilic Addition to 6, 7-Di-carbethoxypyrazolo [1, 5-a] pyrimidine-3-carbonitrile in the Presence of Boron Trifluoride Etherate	Chem. Pharm. Bull., 29, 2520 (1981)
馬場きみ江, 秦 清之, 木村善行, 松山容子, 小澤 貢	Chemical Studies of <i>Angelica japonica</i> A. GRAY. I. On the Constituents of the Ethyl Acetate Extract of the Root	Chem. Pharm. Bull., 29, 2565 (1981)
久保真百合, 加藤喜昭, 森坂勝昭, 稲森善彦	Insecticidal Activity of Streptothricin Antibiotics	Chem. Pharm. Bull., 29, 3727 (1981)
宮本洋子, 石田寿昌, 井上正敏	Conformational Analysis of 1-[3-(Adenin-9-yl)propyl]-3-Carbamoylpyridinium Cation: a Model Study for the Intramolecular Interaction of Nicotinamide Adenine Dinucleotide	Chem. Pharm. Bull., 29, 3427 (1981)
玄番宗一, 谷口充幸, 松島 興和	Effect of Bumetanide on p-Aminohippurate Transport in Renal Cortical Slices	J. Pharm. Dyn., 4, 162 (1981)
中元安雄, 武枝敏之, 平野英子, 森本一洋, 森坂勝昭	Distribution of Cephalothin to the Exudate in Comparison with the Plasma or Lymph Concentrations in Croton Oil-induced Inflammatory Rats	J. Pharm. Dyn., 4, 262 (1981)
松島興和, 玄番宗一	Effect of Verapamil on P-Aminohippurate Transport in Rat Kidney Cortical Slices	Japan. J. Pharmacol., 31, 467 (1981)
藤田 直, 藤本陽子	Effect of Various Diuretics on Lipid Peroxidation in Rat Renal Cortical Mitochondria and in the Supernatant	Japan. J. Pharmacol., 31, 795 (1981)
藤本陽子, 安岡フジ子, 藤田 直	Effect of Ascorbic Acid and Ferrous Iron on p-Aminohippurate Accumulation by Rat Kidney Cortical Slices	Japan. J. Pharmacol., 31, 1013 (1981)
栗原拓史, 谷 力, 邦須啓子	Ring Transformation of 6H-Cyclopropa [5a, 6a] pyrazolo- [1, 5-a] pyrimidine	Heterocycles, 15, 265 (1981)
井上正敏, 石田寿昌, 他	The Configuration Concerning the Mode of Biphenyl Linkage of Bisaknadinine	Heterocycles, 16, 351 (1981)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
栗原拓史, 谷 力, 邦須啓子	The Synthesis of 9 <i>H</i> -Imidazo [1, 2- <i>a</i>] [1, 3] diazepines	Heterocycles, 16 , 1677 (1981)
石田寿昌, 清水聡美, 井上正敏, 他	The Crystal and Molecular Structure of <i>N</i> -(Thioacetyl) tryptamine. A Radioprotective Indole Compound	Bull. Chem. Soc. Jpn., 54 , 1105 (1981)
三野芳紀, 石田寿昌, 太田長世, 井上正敏, 他	Structure, Properties, and Transport Mechanism of Iron (III) Complex of Mugineic Acid, a Possible Phytosiderophore	J. Am. Chem. Soc., 103 , 6979 (1981)
三野芳紀, 石田寿昌, 太田長世, 井上正敏, 他	X-Ray Crystal Structure of the Copper (II) Complex of Mugineic Acid, a Naturally Occurring Metal Chelator of Gramineaceous Plants	J. C. S. Chem. Comm., 1981 , 338
石田寿昌, 森本裕子, 井上正敏, 他	Three-dimensional X-Ray Crystal Structure of <i>S</i> -Adenosyl- <i>L</i> -homocysteine, a Potent Inhibitor of <i>S</i> -Adenosylmethionine-dependent Methyltransferases	J. C. S. Chem. Comm., 1981 , 671
井上正敏, 石田寿昌, 他	Unusual Photocyclisation of 1-(<i>N</i> -Methyl-1-naphthoylamino)-tetramethylcyclohexene; X-Ray Crystal Structure of 4b, 8, 9, 10, 10a, 10b, 11, 12-Octahydro-6, 8, 8, 10-tetramethyl-10, 12-methanobenzo [<i>i</i>] phenanthridin-5 (6 <i>H</i>)-one	J. C. S. Chem. Comm., 1981 , 692
井上正敏, 柴田 恵, 近藤裕一, 石田寿昌	Role of Tryptophanyl and Tyrosyl Residues of Flavoproteins in Binding with Flavin Coenzymes. X-ray Structural Studies Using Model Complexes	Biochemistry, 20 , 2936 (1981)
栗原拓史, 邦須啓子, 石森 婦美子, 谷 力	Reaction of Ethyl 3-Ethoxymethylene-2, 4-dioxovalerate and Ethyl Ethoxymethyleneoxaloacetate with 3-Aminopyrazole Analogs. Synthesis and Chemistry of 3, 6, 7-Trisubstituted Pyrazolo [1, 5- <i>a</i>] pyrimidine Derivatives (1)	J. Heterocycl. Chem., 18 , 163 (1981)
三野芳紀, 石田寿昌, 太田長世, 井上正敏, 他	Molecular Structure and Spectroscopic Properties of a Copper (II) Complex with Mugineic Acid, a Novel Amino Acid from Gramineaceous Plants	Inorg. Chem., 20 , 3440 (1981)
石田寿昌, 井上正敏, 他	New Methods and Reagents in Organic Synthesis. XIII. Structure of 3β-(1-Pyrrolidinyl)-5α-cholestane-3α-carbonitrile	Acta Cryst., B 37 , 1881 (1981)
石田寿昌, 井上正敏	Structure of the Complex 3-Indoleacetic Acid : Tyramine (1 : 1)	Acta Cryst., B 37 , 2117 (1981)
石田寿昌, 井上正敏	An X-Ray Evidence for the Charge-Transfer Interaction between Adenine and Indole Rings : Crystal Structure of 1, 9-Dimethyladenine-Indole-3-Acetic Acid Trihydrate Complex	Biochem. Biophys. Res. Commun., 99 , 149 (1981)
石田寿昌, 柳谷朋子, 中川 義之, 井上正敏	A Model of Flavin Adenine Dinucleotide Exhibiting Intramolecular Hydrogen Bonding : Crystal Structure of 7, 8-Dimethylisalloxazine-10-Acetic Acid-Adenine-9-ylethylamine Heptahydrate Complex	Biochem. Biophys. Res. Commun., 99 , 1179 (1981)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
松島與和, 玄番宗一	Stimulatory Effect of Calcium Ions on p-Amino-hippurate Accumulation by Rat Kidney Cortical Slices	Renal Physiol., Basel, 4, 191 (1981)
土井 勝, 他	Neutrino Mass, the Right-Handed Interaction and the Double Beta Decay. I	Progress of Theoretical Physics, 66, 1739 (1981)
土井 勝, 他	Neutrino Mass, the Right-Handed Interaction and the Double Beta Decay. II	Progress of Theoretical Physics, 66, 1765 (1981)
土井 勝, 他	CP Violation in Majorana Neutrinos	Physics Letters, 102 B, 323 (1981)
土井 勝, 他	Neutrino Masses and the Double β Decay	Physics Letters, 103 B, 219 (1981)
望月伸三郎, 新宅幸憲	本学学活での体力向上への示唆 — 体育指導の基礎研究 (Ⅲ)	ばいでいあ, 5, 75 (1981)
浜中久美子	ル・フォル研究 (I)	ばいでいあ, 5, 111 (1981)
碓井信二	現代「政治詩」の概念—ハンス・カロツサの「西欧哀歌」解釈のための—地平	ばいでいあ, 5, 125 (1981)
加藤義春	「国民国家」概念をめぐる—ファシズム論との関連で	ばいでいあ, 5, 133 (1981)
阿部 功	「ドイツ・イデオロギー」と「マルクス・エンゲルス—現代国家論のためのノート(4)	ばいでいあ, 5, 151 (1981)
望月伸三郎	高齢化社会と体育	全日本教職員ハンドボール連盟紀要第4集 p. 33 (1981)
望月伸三郎	競技種目別競技力向上に関する研究 第4集 ハンドボールについて	日本体育協会スポーツ医学科学研究報告 p. 47(1981)
〔昭和55年度追加〕		
西野隆雄, 他	Structures of Echinoid A and B, Two Antifungal Oligoglycosides from the Sea Cucumber <i>Anlnopyga echinoides</i> JAEGER	Chem. Pharm. Bull., 28, 1651 (1980)
平野英子, 森本一洋, 武枝敏之, 中元安雄, 森坂勝昭	Pharmaceutical Studies of Polyacrylic Acid Aqueous Gel Bases. II. Absorption of Ibuprofen from Gel Preparations following Rectal Administration in Rats	Chem. Pharm. Bull., 28, 3521 (1980)
段 孝, 玄番宗一	Effect of Hypocalcemia on Divalent Cation-Activated ATPase and Ca^{2+} Uptake in Microsomes of Rat Kidney Cortex	Renal Physiol, Basel, 2, 318 (1980)